

6月

多摩川アユの産卵時期と産卵場所（天然アユの生態）より引用

<http://tamaaawa.circlemv.com/seitai-02.html>

あの日のあの川 リレー日記 ～第29話～

あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第29話主人公 堤陽星

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 3年次 白川(直) 研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：神奈川県多摩川)

「辛い行事」

いつのこと？： 幼少期～高校卒業

どこの川？： 多摩川

5月号を執筆した前田さんよりバトンが回ってきたので、私の地元である川崎市と東京都の間を流れている多摩川での思い出を執筆する。

私が通っていた神奈川県立多摩高等学校には多摩川の河川敷で行う行事が二つある。一つ目はマラソン大会だ。マラソン大会は1, 2年生が男女別で行う行事で、男子は8 km、女子は5 km走った。この行事の悪いところはマラソン大会の練習ということで一定期間体育の時間が持久走に充てられることだ。サッカーやソフトボールなどが出来る楽しい時間になぜ走らなくてはならないのかという気持ちでいっぱいであったが、この期間は体育で走っているからという理由で、部活での走り込みのメニューが減っていたのでいいこともあった。ただ、体育で手を抜くと連帯責任で罰走になるので結局走らされた。

私が所属しているハンドボール部では50位以内には入れないとペナルティを受ける決まりがあり、体力が他の部員より劣っている私にとって50位はとても高い目標であった。体力がないなりにペナルティを恐れて一生懸命走った思い出は今でも忘れられない。普段部活で走りなれている河川敷であったが、マラソン大会の光景は部活のそれとは全く違うものだった。まず、開始時に前の方の集団に入れないと、序盤だけスピードを出す人たちに巻き込まれてしまいペースが遅くなってしまふ。さらに、狭い道を走るためアスファルトで舗装されている地面を上手いことキープして走ることが出来なければ小石でゴツゴツして走りづらく、足に疲労がたまってしまふことになる。このように色々なことを考え、作戦を練って臨んだマラソン大会であったが、結局70位ぐらいにしか入れず、50位には入れずに悔しい思いをした。ペナルティを受けたことは言うまでもない。

マラソン大会や部活での走り込みの記憶だけを思い出すと多摩川は私にとって恐怖の対象でしかない。しかし、多摩高校が誇るもう一つの行事である大師強歩はあまり嫌いではなかった。この行事は多摩高校が立地している宿河原から川崎大師まで、距離にして22 kmほど歩くというものだ。1~3年生の男女が全員参加するので900名ほどの生徒が川崎大師に向かって歩くわけだ。学生服を着た高校生やロードバイクですごいスピードを出している人、上半身裸でランニングしているおじさん等、普段は多様な人々で賑わっている多摩川の河川敷を占拠して歩く多摩高生は近隣住民の方からしたらさぞ迷惑であったことであろう。

マラソン大会と同じくこの行事は生徒に非常に受けが悪い。歩く距離はもう少し短くていいのではないかと、近隣住民から苦情がくるならば今年度から廃止にした方が良くといった声はちらほら聞こえてくる。また、3年生からしたら受験の大事な時期になぜ勉強をせずにこのような行事を行うのか理解不能である。このように不平不満を漏らす生徒も、この行事は体育の大事なカリキュラムであるためさぼったら進級・卒業できなくなるという本当かどうか分からない噂のために、みんな参加していた。

授業が無くなるからという不真面目な理由だけで私はこの行事が好きだったわけではない。まず、実家から近い距離の多摩川は見たことも遊んだこともあったが、10 km以上離れた多摩川を見るのは初めてであり、一種の冒険心のようなものがくすぐられたからである。また、川崎大師に着いたら自由解散になるため、普段は自転車通学であったため学校に近いところで遊んでいたのだが、川崎駅付近で遊べたため少し特別な気がした。だが、一番私がこの行事が好きであった要因は、ただ多摩川を友達と話しながらか歩くのがとても楽しかったからであろう。1~3年生の3回とも私は部活の同期と共に歩いたのだが、3年生の時は大師強歩のおかげで、部活を引退して関わりが薄くなっていたメンバーと久々に会話できた。歩いていた時はもちろん辛かったのだが、あの時間は今思い返すと2年以上決して楽ではない練習を共に乗り越えてきた友達と何かを成し遂げた高校時代での最後の出来事であったのではないかと思う。

上述のように生徒からはあまり人気のないマラソン大会と大師強歩であったが、高校を卒業して3年以上たってから振り返ってみて、私はこれらの行事をさぼらずに参加して良かったと感じている。やはりこのような行事は机の上で学ぶこととは全く異なったものを学べるいい機会であると思う。私の例であれば、マラソン大会では厳しい目標に対して諦めずに色々な策を講じる力が身につく、大師強歩では大切な友達の存在を再確認できた。在校生も辛いであろうが逃げ出さずに頑張ってみてほしい。

ここまで延々と高校での行事について執筆してきたが、私は今不思議な縁を感じている。高校生の時まで、というよりはつい最近まで大して興味を持っていなかった多摩川について白川研究室に入って執筆したことで、今まで多くのものを多摩川で学んできたのだなと感じた。研究室で学術的な物を学ぶのと同時に、実家に帰ったときにはまた友達と走り回ったり、バーベキューをしたりして学術的な物とは異なったものを学びたい。言い換えると友達と川遊びをしたい。

(次は饒平名青空さんにバトンを託します)